2022 京都集会　乳児保育分科会　分散会別提案要旨

【A 分散会：0 歳児】

（1）0歳児保育を通して学んだこと

（北埼玉保問研・たんぽぽ保育園・野口 明さん）

水や土などの自然に触れて，逞しくしなやかな身体と心を育て発達を保障することを大切にしている園です。背中が反りがちで人見知りが強いＭちゃん，音に敏感で体の緊張や不安の強いＲくん――0 歳児クラスの 2 人の事例が取り上げられ，保育者の関わりの工夫やそれによる子どもの変化が述べられています。一人ひとりの発達を捉えて，心地よく生活するための手立てを考え，子どもに合わせた遊びを工夫していった実践です。0 歳児の保育を進める上で大切な，複数担任での連携のあり方，保護者との関わりなどについても考察されています。

（2）Ｔくんと思いがわかりあえて毎日が楽しい！

（愛知保問研・とうえい保育園・井上 芳樹さん）

Ｔくん（0 歳児クラス，５月生まれ）と提案者は，遊びの場面では楽しい関わりが持てるのに，給食の場面ではいつも嫌な雰囲気になってしまいます。それはなぜなのか，また，Ｔくんの思いはどうなのかを探るため，給食場面の働きかけを記録し，担任３人で話し合いが行われていきました。Ｔくんの思いをとらえて関わり方を変えていくうちに，お互いの思いがかみあって遊びでも給食でも関わりが楽しいものになっていき，一緒にすごすことが安心できるものになっていった様子が描かれています。子どもの思いを大切にした保育と子どもの変化とのつながりが，具体的に示された実践記録です。

【B 分散会：１歳児】

（1）乳児期に本当に大切にしたい経験とは　～「モウイッカイ」が育む子どもの主体性～

（仙台保問研・認定こども園やかまし村・高橋 季子さん）

自然に恵まれた環境の中で，子どもが思わず見たり触ったりする経験を豊かにすること，子どもの「モウイッカイ」を受けとめて主体性を育むことが大切にされた１歳児クラスの実践です。秋のどんぐり拾いの散歩と，その日の生活を再現した遊びの中での子どもたちの様子が生き生きと描かれています。どのような姿を子どもの「モウイッカイ」の表現として捉えたのか，その思いを実現するためにどのような手立てをとり，その結果どのような子どもの姿につながったのか…そのような保育の流れが具体的に示され，検討されています。

（2）子どもたちが安心できる居場所作りを

（熊本保問研・大光保育園・柏木 あいみさん）

１歳児クラスのＡくんの事例を中心的に取り上げながら，関わりの難しさを感じる場面での保育者の対応や，保育室の遊び環境について検討されています。Ａくんには新しい環境になじみにくい様子があり，少し落ち着くと友だちに手を出してしまう姿がみられ始めたのですが，その時その時のＡくんの姿から，思いを丁寧にとらえた関わりが行われていきました。また，クラス全体が落ち着かなくなった時には，環境を変える絶好のチャンスととらえて，遊びのコーナー作りに取り組まれました。子どもたちの思いに応えて保育を変えていくプロセスが，具体的に示されている提案です。

（３）生き物を通して広がる他者との共感関係　～“やってみたい”という意欲が芽生える～

（大阪保問研・瀬川保育園・南 雅喜さん）

身近にさまざまな生き物がいる環境をつくることに取り組んだ，１ 歳児クラス高月齢児グループの実践です。サワガニ，ザリガニ，カブトムシ，メダカ，あおむし（チョウ）などと生活するにあたり，１歳児に合わせた飼育環境が検討されています。また，クサガメのこうちゃんと関わる中で，子どもたちから自然にカメの表現が出てきたり，『かめのこうちゃん』の絵本が好きになったりしたことから，運動会の取り組みにもつながっていきました。生き物を通して，保護者や他クラスの子どもとの交流も生まれました。１歳児クラスならではの生き物との生活について考えることができる提案です。

【C 分散会：２歳児】

（１）子どもも保育者も安心できる環境の中で共に

（愛媛保問研・新田保育園・橋本 麻美さん）

子どもの気持ちを受け止めること，子どもが友だちとの関わりの中で育っていくことを大切に考えた２歳児クラスの実践です。提案者は，持ち上がりの自分を後追いする子どもや，散歩での石垣登りに取り組みにくいＳくんの姿などに向き合って，関わり方に悩むこともありました。けれども，保育者との信頼関係が友だち関係にも広がっていき，発表会の劇あそびでは，提案者自身も安心感の中でイメージを共有する楽しさを味わっていきます。心が揺れ動く２歳児の姿をどうとらえて支えるか，子どもも保育者も安心感の中で共に成長するために大切なことは何かが検討されています。

（２）少人数保育を通して感じる「一人ひとりに寄り添う保育」の難しさと集団の大切さ

（北海道保問研・勤医協中央病院内保育園ないろ・沖野 桃花さん）

２歳 11 か月で入園したＫくんの保育の経過が取り上げられています。入園当初のＫくんには，人との関わりやコミュニケーションの難しさ，環境の変化による不安やパニックなど，配慮を必要とする姿がありました。小規模の院内保育のため，集団や友だちの力を活用しにくい状況がありましたが，Ｋくんのペースを尊重しながら同じ法人の保育園との交流を進める中で，友だちや保育者との関わりに変化がみられていきました。「一人ひとりを大切にする保育」や「集団があることの意味」について，２歳児に焦点化して考察された提案です。

（３）生活再現，みたて・つもりあそびの楽しさを

（京都保問研・風の子保育園・中川 恵子さん）

園でこれまで使われてきた食べ物玩具ではなく，みたてられる素材を使ったままごとをしたいと思って取り組まれた，２歳児クラスの実践です。一時期は「ままごとをしたい」と言わなくなった子どもたちでしたが，保育者がみたてのきっかけを作るうちに楽しめるようになっていき，レストランごっこ，遠足ごっこなどにもみたて・つもりの世界が広がっていきました。どのような環境を構成すればみたて・つもりがふくらみやすく，友だちとイメージを共有して遊びを広げていきやすいのか，子どもたちの楽しそうな言葉のやりとりからも学ぶことができます。